

第3地域ロータリー財団チームニュース第5号

寒中お見舞い申し上げます。

2022年が皆様にとりまして、素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。

年末から年始にかけて寒い日が続き、東北・北海道・北陸の多くの地域で豪雪が観測されているようです。心よりお見舞い申し上げます。さて、財団チームニュースの発行が遅れ誠に申し訳ありませんでした。これから、また隔月で配信して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

第1、2、3地域 ロータリー財団地域セミナー開催さる

さる2021年12月5日日曜日に、第1、2、3地域 ロータリー財団地域セミナーが、第1地域ロータリー財団地域コーディネーター・羽部大仁 PDG の主催で、東京丸の内・JPタワービルにおいて開催されました。残念ながらコロナの影響で、ユン・サンクーTRF 管理委員会副委員長のご来訪は叶いませんでしたが、ビデオによるご挨拶と、同「現在、そして未来のロータリー財団」と題したご講演を賜りました。

午前の部は、辰野克彦 RI 理事、三木明 TRF 管理委員、ロータリー日本財団・千玄室理事長にご挨拶とご報告をいただき、ファンドレイジングの立場から、第1地域 E/MGA 中谷研一 PDG、第3地域 E/MGA 佐藤芳郎 PDG (RI 理事エレクト) よりお話を伺いました。午後はユン・サンクーTRF 管理委員会副委員長の講演に始まり、補助金活用のヒントとなる地区の取り組みを2830地区、2790地区、2700地区から発表してもらい補助金活用の多くのヒントをいただきました。また、パネルディスカッション「みんなのロータリー財団」では羽部大仁 RRFRC モデレーターにより3名のパネラーと補助金活用のノウハウやファンドレイジングのコツなどを具体的に示していただき、各地区のロータリー財団委員長の皆様へ R 財団のメッセージをお伝えできたのではないかと考えています。

次年度は第2地域服部良男 RRFRC の主催で、神戸ポートピアホテルで開催されます。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

年が明け、2021～2022年度もあと半年となりました。さて、今年に入ってから新型コロナの第6波がオミクロン株によってもたらされました。感染者はどの県でも爆発的に拡大し、1月27日時点では全国で一日7万人以上となってしまいました。世界中で感染拡大が続く中、国際協議会は今年もまたオンライン開催となり各地区のガバナーエレクトの皆さんの心中察するに余りあります。

しかし、そんな中でもガバナーエレクトの皆さんが逆境に負けず、次年度に向けて着々と準備をされている姿を拝見するにつけ、「ロータリー」の素晴らしさを痛感しています。私たち、第3地域ロータリー財団チームは各地区のロータリー財団活動を支援するとともに、担当地区のクラブのGGやDDFを使った活動のお手伝い、ロータリー財団の詳細な活動内容をクラブや地区でお知らせする役目も担って

います。ガバナーやガバナーエレクトが主催される地区の様々なセミナーなど、ご一報いただければいつでも伺いますし、クラブの卓話などのご相談もお受けします。皆様のロータリー活動が遅滞なくできますよう祈念いたします。

あと半年となりました。

【地区補助金を使った奉仕活動】

今年も新型コロナの影響を受け、多くのセミナーやクラブ例会がハイブリッド(対面とオンライン共用)やオンラインのみとなっているようです。その中で、まだ今年の DDF が十分活用されていない地区も見受けられます。次年度の奉仕プロジェクトは前年度 5 月くらいまでに決めるため、中止によってそのまま予算が使われず地区に残存することもあると聞きます。ガバナー、地区財団委員長とご相談の上、柔軟な対応をお願いいたします。また、年度末に未使用の DDF がある場合、残金のプールは 5 年が限度となり、それ以降は国際財団活動資金(WF)に自動的に組み込まれます。残存した DDF がある場合「第 3 地域ロータリー財団チーム」にご相談の上、地区からポリオ根絶基金や平和センターへの寄付をご考慮いただきますようお願いいたします。

【グローバル補助金を使った奉仕活動】

世界の様々な地域での 7 つの重点分野に適した奉仕プロジェクトは、国際ロータリーが最も支持する活動です。しかし、やはり新型コロナの影響で、往来ができないために「現地調査」ができにくい状態になっています。昨年・一昨年は新型コロナのパンデミックで重点分野の一つ「疾病予防と治療」分野で世界中でコロナ対策に使用され世界中から賞賛を浴びてきました。今年度、シェアシステムの配分が少し変わりましたが、多くのプロジェクトが期待され施行されています。

もしも、何かお困りのことがあれば、担当の ARRFC または RRFC までご連絡いただきますようお願いいたします。

【ポリオプラス】

ご存知のように、2021 年は 1 月にアフガニスタンとパキスタンで野生株ポリオ発症が 1 例ずつ報告された後、11 月まで 2 例のままでしたが、11 月にアフガニスタンで野生株ポリオが 2 例が報告され 2021 年は合計 4 例の発生でした。(2020 年の発症総数 140 例 * 野生株) 今年 2022 年 1 月 19 日までの発症はアフガニスタン・パキスタンともにゼロです。ですから、パキスタンでは 1 年間発症ゼロとなりました。さらに 2 年間野生株の発症がゼロであれば、ナイジェリアに続いてポリオフリーの国となり、残りはアフガニスタンだけということになります。引き続き「ポリオ根絶」に向けてみなさんの応援をよろしくお願いいたします。

【大口寄付と誓約:定義】

大口寄付と誓約：定義

種類	概要	レポートでの表示
大口寄付	ロータリープログラムの支援を目的とした一括1万ドル以上の寄付です。	Outright
遺贈	寄付者の死亡により、財産の一部がロータリー財団に送られる誓約寄付で、通常、遺産計画や、生命保険または退職年金の受取人指定といった資産移動のかたちで行われます。誓約を行う方法は、国や文化によって異なる場合があります。	Bequest
遺贈友の会	10,000ドル以上の受取人としてロータリー財団を遺産計画に含め、その旨を財団に通知した人またはご夫妻が会員となります。	Bequest
贈与年金	贈与年金は、寄付者と財団の同意によるもので、寄付者からの現金寄付または株の寄贈への見返りに、財団が、定額の支払い(年金)を提供することに同意するものです。据置型の贈与年金の場合、定額支払いは、寄付者が要請した先の日付に開始されます。	CGA, Deferred CGA
残余公益年金信託 (CHARITABLE REMAINDER ANNUITY TRUST)	残余公益年金信託は、信託への取消し不可能な寄付で、信託の当初の公正市場価値の一定の割合が米国の寄付者あるいは指名された受取人に支払われます。財団は唯一の余剰分受取人となり、寄付者あるいは指名された受取人の生存中における管財人となります。	Annuity Trust
残余公益信託および 追加分 (CHARITABLE REMAINDER UNITRUST AND ADDITIONS)	残余公益信託は、信託への取消し不可能な寄付で、信託の当初の公正市場価値の一定の割合が米国の寄付者あるいは指名された受取人に支払われます。財団は唯一の余剰分受取人となり、寄付者あるいは指名された受取人の生存中における管財人となります。既存の信託に追加で行われる寄付については、追加分(Addition)であることが記されます。	Unitrust (Addition)
残余公益信託および 追加分:外部 (CHARITABLE REMAINDER UNITRUST AND ADDITIONS - OUTSIDE)	残余公益信託は、信託への取消し不可能な寄付で、信託の当初の公正市場価値の一定の割合が米国の寄付者あるいは指名された受取人に支払われます。財団は余剰分受取人として指名され、管財人とはなりません。既存の信託に追加で行われる寄付については、追加分(Addition)であることが記されます。	Outside Unitrust (Addition)
使途推奨冠名基金の 補助金:外部	財団の使途推奨冠名基金に関連する補助金で、財団の使途推奨冠名基金のアカウントは通されません。	DAF Grant - Outside
使途推奨冠名基金の 補助金:財団	財団の使途推奨冠名基金から直接、財団プログラムに充てられる補助金です。	DAF Grant - TRF
生命保険証券	財団が、寄付の受理に関する方針に記された基準に沿う生命保険証券の所有権を受理します。	Life Insurance

大口寄付の誓約	財団は、通常、支払い期間3年以下で、その価値が10,000ドル以上の場合には、無条件の寄付誓約を受理することができます。この条件を満たしている誓約は、誓約全額の一定比に通常相当する最初の支払いが行われた時点で有効となります。誓約の条件は書面で確定されなければなりません。誓約は、寄付者の法的拘束力のある義務とみなされ、財団の財務報告に記録されます。	Pledge
共同出資収益基金	寄付者は、現金あるいは市場で売買できる有価証券の寄付を財団の共同出資収益基金に行うことができます。これと引き換えに、基金の中の単位が、各寄付者に割り当てられます。寄付者または指定された受取人(受益者)は、生涯にわたり、これらの単位から生じた全収入を受理します。	PIF
遺産寄付	遺産寄付は通常、寄付者の生存中に遺言または最終遺産計画によって設定され、死亡時に有効化または実現します。財団が遺産寄付を受理すると、遺産寄付(Estate Gift)が行われた旨がレポートに示されます。	Estate Gift
個人退職年金 (INDIVIDUAL RETIREMENT ACCOUNT)	個人退職年金(IRA)の公益配分は、2014年に再び利用できるようになり、2014年12月31日まで毎年100,000ドルを上限として、米国連邦所得税の対象となることなくIRAから直接、ロータリー財団に移譲できます。	IRA

【最後にお願ひ】

半期が過ぎ、地区における財団活動も順調に経過していると思ひます。

皆様のご協力とご尽力に心より感謝申し上げます。

さて、毎年4月～5月にロータリー財団から送られてくるレポートに、「寄付ゼロクラブ」があります。ご存知のように、日本での第1・第2・第3地域におきまして昨年度は「寄付ゼロクラブゼロ」を達成いたしました。例年、この寄付はクラブからの年次基金への寄付を指します。よく耳にしますのが、「ウチのクラブはポリオに寄付した。」とか「恒久基金に寄付した。」というものです。ポリオプラスや恒久基金に寄付しても年次基金には加算されませんのでご承知おきを願ひします。また、今年度は皆様のクラブに担当のロータリー財団地域コーディネーター補佐(ARRFC)から連絡をいたしますので、できましたら4月末までにご協力賜りますようお願いいたします。額は決まっておきませんので少額でも結構です。

2021～2022年度 日本のロータリー財団目標

- * 年次基金 1人当たり150ドル(日本全体1,350万ドル)
年次基金寄付ゼロクラブゼロ達成を継続する。
Every Rotarian Every Year(年次基金への寄付)の推進
ポール・ハリス・ソサエティの推進
- * ポリオプラス基金 1人当たり30ドル(日本全体270万ドル又、1,500ドル以上のクラブに財団感謝状贈呈)
- * 恒久基金 冠名基金を各地区一件以上
- * 大口寄付 寄付の種類にかかわらず、1万ドル以上の寄付を日本全体で100件
AKSを日本全体で10名増やす。
中期目標として、2～3年で「AKS 0名地区」ゼロを目指す。

- * DDF の活用
 - ・DDF の 20%をポリオプラスへ寄贈
(DDF の 20%をポリオプラス基金へ寄贈した地区と、1500ドル以上の寄付をしたクラブには、ロータリー財団から感謝状が贈られます。)
 - ・ロータリー平和センター、重点分野への寄贈。
(日本ロータリー平和センター基金(E11695)の累計が、150万ドルに達すると毎年この基金からロータリー平和フェロー1名を支援できます。)
 - ・各地区が DDF を使い切る。
- * 補助金活動
 - グローバル補助金・地区補助金の活用の促進
 - ロータリー平和フェローシップの推進

ロータリー財団地域コーディネーター、ロータリー財団地域コーディネーター補佐の役割

- * 年次基金への寄付の重要性について地区リーダーを通じて、クラブに伝える。
- * ポリオ根絶コーディネーター(EPNC)と協力して、クラブへポリオ寄付を推進する。
- * 地区リーダーと協力して年次基金への寄付を推進する。
- * 地区リーダーと協力して、グローバル補助金・地区補助金への参加を促す。
- * ポリオ根絶・ロータリー平和センター・重点分野などの財団活動の周知を図る。
- * 地区の財団活動への支援を行う。
- * E/MGA と協力して、恒久基金・大口寄付の推進を図る。

お願い: 第3地域内地区ガバナーエレクト、次年度地区財団委員長様

毎年10月24日は世界ポリオデーです。今年は第2地域2780地区の「ポリオ根絶サミット」や2750地区では「トレインジャック」と言った大きなイベントが開催されます。次年度第3地域でも多地区合同でも地区単独でも構いませんが世界ポリデーに向けたイベントの企画を募集します。ご参加のほどお願いいたします。ご提案がありましたら sochan0001@me.com までご連絡ください。

第3地域ロータリー財団チーム

RRFC	永田壮一	E/MGA	佐藤芳郎	EPNC	前田直俊
ARRFC	四宮孝郎				
ARRFC	吉原久司				
ARRFC	駒井英基				

文責: 永田壮一